

平成 28 年度 ACTR

平成 28 年度 丹後宮津資料調査

棟田 成紹

平成 28 年度の京都府立大学 ACTR 「丹後の海」の歴史文化に関する総合的研究のうち、丹後宮津資料調査は京都府立丹後郷土資料館にておこなった。平成 25 年度から平成 27 年度におこなわれた宮津市北前船関連資料調査研究に引き続き、資料調査をおこなった。

宮津市北前船関連資料調査研究においては「元結屋三上家文書」（京都府立丹後郷土資料館寄託）、「小林善次郎家文書」（舞鶴市郷土資料館所蔵）などの京都府内に残る文書群について調査をおこなったほか、「尾関家文書」（鶴岡市郷土資料館所蔵）、「佐野家文書」（新潟大学附属図書館）、「諸国御客船帳」（島根県浜田市指定文化財、柚月学編『諸国御客船帳』下巻（清文堂出版、1977 年）所収）の史料調査およびデータ化をおこなった。同時に「元結屋三上家文書」のデータ化もおこない、宮津・由良・伊根地域における北前船の活動の様子と、その広域的な活動の様子を明らかにした。

平成 28 年度では以前の調査研究の成果を踏まえて、北前船の広域的な活動について主に調査をおこなった。以前の調査研究において、庄内の畠山徳次郎や下関の油屋仁左衛門、村野徳右衛門、大坂の嶋谷（嶋屋）重治郎、庄内加茂の花澤由蔵、但馬小嶋村の米屋新五郎、酒田の尾関又兵衛等の人名が確認されていた。『宮津市北前船関連資料調査報告書』（京都府立大学文学部 歴史学科 2016 年）において、「小林善次郎家文書」について調査をおこない、下関の油屋仁左衛門からの相場書があること（写真 1）や、寄港地である小樽の廻船問屋である鹿田栄太郎からも相場書が届いていることを確認している（写真 2）。また同報告書内で「宮津船問屋文書」（京都府立丹後郷土資料館所蔵）に残る史料の中にも、油屋仁左衛門の名前があることを確認している（写真 3）。今年度では「宮津船問屋文書」の調査を引き続きおこない、鹿田栄太郎についてもその存在を確認することができた（写真 4）。また、交流の様子について解明するために「宮津船問屋文書」のデータ化を進めているところである。所蔵されているすべての文書についてデータ化がなされているわけではないが、「糸井（乗雲丸）文四郎」や越後寺泊の「京屋四郎左衛門」など「元結屋三上家文書」では確認できなかったような人々が新たに確認された。さらに、調査の過程で「福寿丸和吉」や「袋屋喜兵衛」といった人物が北前船に関わっていたことがわかった。

宮津の元結屋三上家についても、庄内酒田の「尾関家文書」に残る三上家関係資料を調査し、三上家の活動について分析した。その結果、幕末維新时期における三上家の活動について、会津藩の廻米御用をおこなっていたこと、丹後廻船が全国的に活動していたことを明らかにすることができた。その成果は『京都府立大学文化遺産叢書』として発刊する予定である。

これらのことから、従来指摘されていたよりも多くの人々が丹後における廻船に関わっていたことが明らかとなった。今後、丹後地域を基盤として活動していたと考えられる人々につい

て特定を進めるとともに、丹後地域と他地域の関わりを把握したうえで、各地域においてどのような人々が北前船交易に関わっていたのかについて明らかにする必要が出てきたと考える。丹後地域という「点」としての研究ではなく、他地域と関連付け「線」として研究することが必要である。そのためには「尾関家文書」のように他地域に残る丹後地域と関係する諸史料を分析する必要がある。また、「宮津船問屋文書」の文書について、引き続きデータ化をおこない、丹後地域における北前船交易の全貌を明らかにするとともに諸地域との関連についてさらなる検討を加える必要があることがわかった。今後もさらなる研究の余地があるといえるだろう。

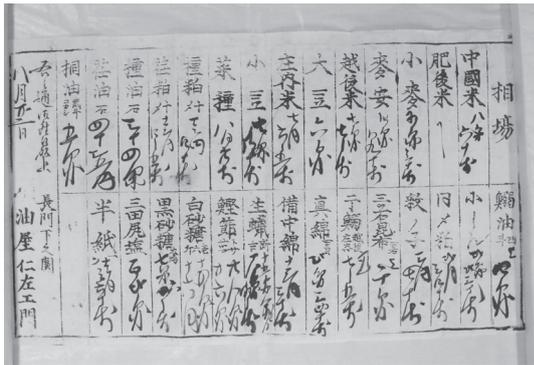


写真1

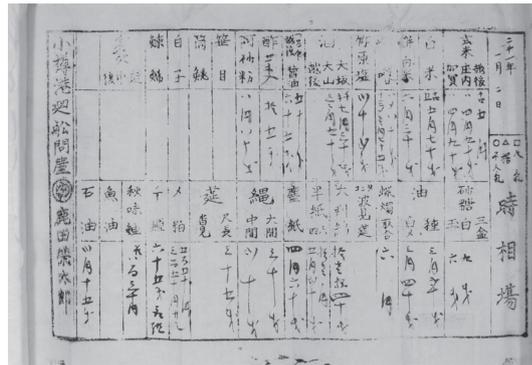


写真2

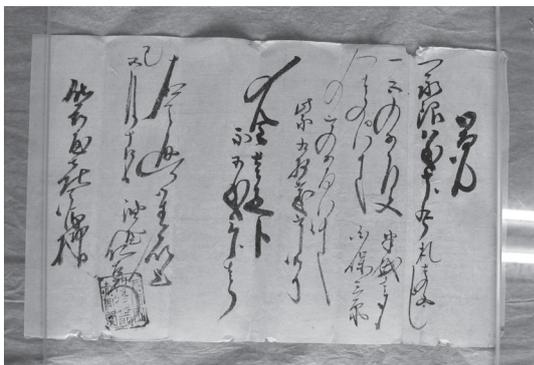


写真3

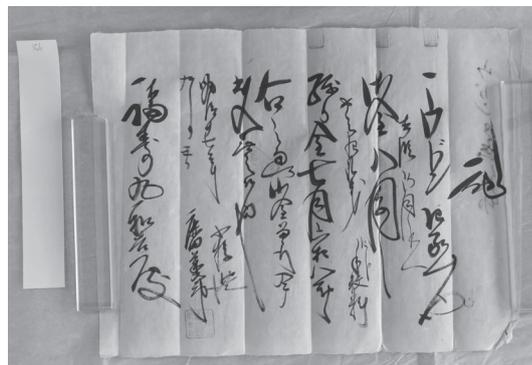


写真4



写真5 調査風景